

放送番組審議会議事録

1. 2024年9月3日（火）
2. KTS 別館（鹿児島シティエフエム株式会社 2F 会議室）
3. 委員総数 7名
出席委員数 5名
出席委員 南徹、中尾成昭、前田真理
放送事業者側出席者 丸山弘樹、山之内美子、内村明香
4. 番組審議
「発見！みんなで生きる紫原」
「みんなで UB 会議」
2024.8.10（土）17：00～18：00
（再放送）2024.8.31（土）17：00～18：00
5. 別紙参照
6. 自社放送 : なし

<議 事>

～番組説明～

番組組制作に至った経緯について。以前の番審の際、番審委員の堤さんより障がいをお持ちの多くの方がラジオを情報源として利用していることをお聴きし、そのような方々と一緒に番組が作れないか？と考え始めました。

昨年度から中学生の職場体験が復活し、その中での最終目標をラジオ番組の制作に設定しています。今年度は、昨年度に引き続き玉龍中学校、新しく紫原中学校の2校がほぼ同じ日程できてくれることになり、中学生がなかなか触れあう機会のない、障がいをもった方々の話をうかがうとことで、彼らが何を感じて何を思うか、中学生が発信することに意味があるのでは？との思いから、様々な方々にご協力をいただきながら制作を行いました。

「発見！みんなで生きる紫原」について。3日間という日程だったので、機材を使う、取材をする、インタビューをするということがじっくり行うことができました。車椅子ユーザーの川崎さんをお迎えして、紫原中学校を案内しながら様々な課題に気づくという番組。校舎の案内と教室の一室をお借りして行ったインタビューとを織り交ぜながら編集しました。

「みんなでUB会議」について。2日間の日程だったので、ゲストをスタジオにお招きして、トーク形式で展開させる内容にしました。昨年から実施されているユニバーサルビーチというまだ認知度の低い試みを、まず子供達に知ってもらい、子供達と障がいをもった方々が話し合ったら何が生まれるかそれをそのまま番組にしました。

委員 番組として素晴らしいと思いました。日本の中学生は **intelligence** (知性)、**integrity** (誠実さ)、**creativity** (創造性) を掛け合わせにすると、人間で最も頂点の時期のように感じています。その意味でも、紫原中学校と玉龍中学校にフォーカスしたのは正解だったように思います。

「みんなでUB会議」について、石神さんの伝えようとする姿、地元愛など障がいを超えた時点の話ができる方を抜擢している点、また、最後に生徒から出た、サポーターも一緒に楽しむことで持続可能性を高めていくという結論に至ったことが、この番組を制作した最大の功績のように感じました。

「発見！みんなで生きる紫原」の川崎さんの話もとても素晴らしく、トイレに入る時間が一般の方より長いという話など、他視点から聴くことができ、新しい概念をみつけることができた番組でした。

委員　それぞれに異なるカラーの番組でした。玉龍中の子供達は慣れている感じがしましたし、紫原中の子供達のぼくとつとしたしゃべりも聴かされました。パーソナリティ（大人）ではなく中学生が質問し、話をするからこそ、大人が耳を傾けてしまう、そんな魅力があることに気がつき、これからもこんな番組を続けて欲しいと感じました。

川崎さんと石神さんが、かごしま弁で子供達と同じ目線で話している点がとても惹きつけられ、私も知らないことを知ることができ、意義のある番組だと感じました。どのように番組を制作したのか、その課程も見てみたかったと感じました。

委員　新しい発見が山ほどありました。障がい者を違う目で見っていたと子供達から教えてもらいました。このような番組は、徹底して作らないといけないと感じます。

とにかく驚いたのは、質問を含め、中学生がプロ顔負けのインタビューを行い、さらに番組を制作したということです。耳だけで様々なことを想像する、本当の意味でのラジオという媒体が活きる番組だと思いました。